

海の気配と舞の律動を纏う

上萬雅洋 交響曲第3番 初演!



指揮
米津俊広

第47回

鳥取市 交響楽団 定期演奏会

2026年

10月18日[日] 14:00開演
(13:20開場)

とりぎん文化会館 梨花ホール

作曲
上萬雅洋



プログラム

シベリウス／交響詩『フィンランディア』
鳥取ジュニアオーケストラ参加

上萬雅洋／交響曲第3番ハ長調〈初演〉

ソプラノ 前田 理恵・小倉 知子
バス 渡邊 寛智
ピアノ 綿口 裕美子

ブラームス／交響曲第3番ヘ長調

チケット

未就学児入場不可

料金
全自由席

一般 1,500 円(当日2,000円)
高校生以下 500 円(当日1,000円)

プレイ
ガイド

とりぎん文化会館／鳥取市民会館／鳥取市文化センター／
アコヤ楽器店／丸由百貨店／エースバック未来中心／ア
ルテプラザ／WEBチケットとっとり

お問合せ

鳥取市交響楽団 井上 拓也
TEL 090-4807-1339 MAIL takuinou@gmail.com

主催：鳥取市交響楽団 特別共催：(公財)鳥取県文化振興財団
後援：鳥取市教育委員会／鳥取市文化団体協議会／朝日新聞鳥取総局／新日本海新聞社／毎日新聞鳥取支局／読売新聞鳥取支局／TSKさんいん中央テレビ／BSS山陰放送／日本海テレビ／いなばびよんびよんネット／日本海ケーブルネットワーク

シベリウス フィンランディア

Finlandia, orkesteriteos, op. 26

フィンランド出身の作曲家として最大の敬意を集めるジャン・シベリウスが作曲した、彼の作品の中でも最も愛される作品です。帝政ロシアの圧政に苦しめられていたフィンランド国民の独立運動が高まる中で作曲されました。美しいメロディの中間部は愛国心あふれる歌詞の合唱とともに演奏されることもありますが、今回は管弦楽のみで演奏します。

上萬雅洋 交響曲第3番八長調〈初演〉

Masahiro Joman Symphony No. 3 in C Major

「長調の曲を」という友人からの挑戦を受けて書かれた作品。「海」というテーマのもと、山の湧水から日本海へと流れる様を描いた1楽章(4分の5拍子)、西洋の船旅を描いた気品と風刺を効かせた2楽章(4分の3拍子)、貝殻節を元にした3楽章、船出と様々な出会いを描いた4楽章。間や行間を巧みに用い、細筆で描かれたような繊細な作風です。

ブラームス 交響曲第3番へ長調

Symphony No. 3 in F Major, op. 90

19世紀後半の後期ロマン派の時代にあってバッハのような古典的な音楽を彷彿とさせる作品を作曲し続けたブラームスの4曲の交響曲のうち、比較的演奏頻度の少ないのがこの第3番です。50代を迎えるブラームスの充実した作曲技法と哀愁にみちた旋律があふれる名曲で、激情と穏やかさのコントラストに心をつかまれる名曲です。

作曲家 上萬雅洋さんに交響曲第3番八長調の聴きどころを聞きました。

Q. 今回の交響曲第3番の聴きどころを教えてください。

今回は私の中にある「音」を表現しました。前作のような重厚感はなく、ふわっとした音の重なりやズレ、行間などを様々な拍子を用いて表現しています。またピアノや声楽が加わり、より多彩な「音」を楽しんでいただけたと思います。

Q. この作品から、どのようなことを感じながら聴いてほしいですか？

私達は海によって栄え、豊かになり、また戦や災いも共にしてきました。その歴史が物語るものは人それぞれ受け取り方も違うとは思いますが、「この音楽は何が言いたいのだろう」と思いながら聴いてくださると幸いに存じます。

指揮 米津 俊広



1972年愛知県生まれ。愛知教育大学音楽科、同大学院を経て、東京音楽大学にて指揮を学び、在学中より指揮活動を開始。指揮を広く上淳一、イサーク・カラブチェフスキー、ジョージ・ペリヴァニアン各氏などに師事。2006年から2010年にかけて、スロヴェニア・フィルハーモニー管弦楽団音楽監督ジョージ・ペリヴァニアン氏の推薦により同管弦楽団のアシスタントコンダクターとして渡欧し研鑽を積んだ。2008年9月、第28回マスタープレイヤーズ国際音楽コンクール(ヴェネツィア)の指揮部門にて、最高位並びにブルーノ・ワルター賞を受賞。これまでにサラエボ・フィルハーモニー管弦楽団、スロヴェニア国立放送交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団などに客演している。現在、東京音楽大学指揮科講師。平成19年度文化庁新進芸術家海外留学制度研修員。2024年放送のテレビドラマ『さよならマエストロ〜父と私のアパッシオナート〜』では、西島秀俊の指揮指導を担当。

作曲 上萬 雅洋



1970年鳥取市(旧青谷町)生まれ。オーケストラ、室内楽、ミュージカル、和楽器、吹奏楽、合唱等の作曲および編曲を多数手がける。演奏家からの信頼も厚く、国内のみならずヨーロッパでもその作品は高く評価されている。地元においてはミュージカル作品に多く関わり、その魅力ある作品群は多くの支持を得ている。作編曲は独学によるものだったが、2009年より鳥取大学大学院にて新倉健氏に師事。大学院修了時に「交響曲第1番二短調」を書き上げ、2013年鳥取市交響楽団により初演、さらに2019年には「交響曲第2番八短調」も初演され、いずれも好評を得る。現在、鳥取市交響楽団団長、「合唱団しかの」指揮者、鹿野ふるさとミュージカル演出兼編曲兼指揮者など。主な作品に「交響曲第1番二短調」、「交響曲第2番八短調」、「弦楽のためのレクイエム」、ミュージカル「鹿野にはかっぱ山鳥蜘蛛の糸!」、ミュージカル「星の王子様」、鳥取市立江山学園校歌など。なお「4人のソリストとオーケストラのための『日本の四季』」は12月の県民による第九演奏会にて初演予定。



ソプラノ 前田 理恵

北栄町出身。大分県立芸術文化短期大学音楽科声楽専攻卒業。「魔笛」侍女II、童子II、「ドン・ジョヴァンニ」ツェルリーナ等を演じる。平野弘子、行天祥晃、佐々木典子、西本真子の各氏に師事。藤原歌劇団準団員、日本オペラ協会準会員。



ソプラノ 小倉 知子

鳥取市出身。鳥取大学大学院地域学研究科(声楽)を修了。その後Frankfurt Konservatoriumなどで研鑽を積む。現在は特に、ドイツ歌曲の演奏・ディクシオン研究、子どものコンサートなども企画・演奏している。鳥取大学非常勤講師(ドイツ語)および音楽・語学の教室ノイエアカデミーを主宰。



バス 渡邊 寛智

国立音楽大学声楽科卒業、同大学院音楽研究科声楽専攻修了。京都市立芸術大学大学院博士(後期)課程修了。修了と同時に博士号(音楽)を取得。声楽家として演奏活動を行うとともに、オペラや音楽劇、音楽教育の研究にも取り組んでいる。現在、島根県立大学短期大学部教授。



ピアノ 綿口 裕美子

鳥取市出身。静岡大学教育学部芸術文化課程音楽文化専攻卒業。ピアノを小林峯介、根木真理子、武知朋子の各氏に師事。わらべ館童謡唱歌推進員。合唱団雑音、鳥取市少年少女合唱団ピアニスト。



演奏 鳥取市交響楽団

鳥取県東部で活動するアマチュアオーケストラ。1976年に発足。年1回の定期演奏会のほか、「県民による第九」鳥取公演のオーケストラ演奏も担う。地域のオーケストラとして、鳥取在住のソリスト・音楽家との共演や、地域の音楽イベントへの出演等にも積極的に取り組んでいる。

Instagram



活動の様子を投稿します！